

それぞれの生き方

北野中学校 三年

みなさんは、お出かけした先で障害をもっている方に声をかけられたとき、どのような対応をしますか。これは、最近私が体験したことです。

その日私は、用事があって遠くに出かけていました。人がたくさんいてとても混雑しており、前に進むのがやっと、という感じだったので、私は初めてきた場所というのもあり、とても不安でした。そんな時、後ろから肩をトントン、とたたかれて振り向くと、補聴器をつけたお姉さんが手話で私に何かを伝えてくれました。私は手話が分からないので、どうしたらいいのか分からず、焦っていました。咄嗟にスマホを取り出して、「どうしましたか？」と尋ねると、「キーホルダー、落としましたよ」と教えてくれました。私はとてもおどろきました。障害をもっている方々は、自分のことで手いっぱい、このように声をかけてくれる人がいると思っていなかったからです。私はおどろくと同時に悔みました。なぜ今まで私は障

害をもっている人に対して「このくらいまでしかできない」と勝手に決めつけていたのだろう、と。実際そのようなことは全くなく、例えば補聴器のデザインをおしゃれにしたり、車椅子を改造して自分だけの車椅子にカスタマイズをしたりと、自分が障害を持っていることを気にせずに、自分の人生を最高に楽しんでいる方々も多くいるということを知りました。

しかし、学校ではどのように過ごしているのでしょうか。私たちと変わらない生活を送れるように、特別支援学級というものがあります。しかし、特別支援学級に通っている人たちを、よくからかっている様子を目にします。すぐに「やめなよ。」と言うことができない自分に腹を立ててしまいます。からかっている本人たちは面白がってやっていますが、からかわれている立場からすると、とても嫌で、場合によってはストレスがたまり、精神状態が不安定になったり、症状が悪化したりすることもあるそうです。

私たちは障害をもっている方々を何かあるたびに「特別」「普通じゃない」と言っていますが、

果たしてそれは障害をもっている方々からしてうれしいと思えるのでしょうか。私は、きっと障害をもっている方々も、障害をもっていない私たちと同じように、たくさんすることにチャレンジしたいはず、と思っています。

多種多様な人々であふれている今、私たちは何をすべきなのでしょう。一人一人と向き合うこと？仲良くなってたくさん遊ぶこと？みんなと平等に接すること？たくさんあると思います。自分が正しいと思ったことをどんどん行動に移して、誰とでも仲良く、障害者差別のない、平和だと思える場所を、少しでも増やすことの手助けができればいいなと思います。